

潮騒通信「どっこい生きてます！」

自立心ある円満退寮者を社会に送り出しました

例年のない厳しい寒さの中にも日中の温かな日差しや、真っ青な空の下で開花し始めた梅や福寿草を見ると、張りつめた冷たい空気が和らぎます。旧暦なら既に春、そう考えて縮こまりがちな気分を変えたいものです。さて、潮騒JTCでは昨年12月に続き、1月末に2人目の円満退寮者を出しました。回復状況によっては、4月にも続きそうな気配です。春を前に、うれしい報告ができる喜びを感じています。

今回、円満退寮したのはスタッフだったハルさんです(7ページ参照)。彼は糖尿病を併発した重度のアルコール依存症者でした。しかし、潮騒JTCに入寮してからは他の模範となる熱心さで所定の回復プログラムを修了し、見事に依存症を克服しました。「早く生活保護の状況から脱却したい」と社会復帰に向けた強い自立心をうかがわせました。温和な性格で仲間の信頼も厚く、料理人としても優れた腕を持っています。きっと社会でも活躍してくれるでしょう。私としては、今後の施設運営を支える貴重な人材の一人として期待していました。近い将来、潮騒関連施設のリーダーとして手腕を発揮してくれたら、との願いがあったのですが、本人が家族との関係を修復して仕事を持ち、社会人として自立した生活を送りたいとの意欲が強く、今後は社会の側から潮騒JTCを支えてくれることを願っています。

ところでアルコール・薬物・ギャンブル等の依存症者は、その多くが死と向き合う過酷な極限体験を共通して持ちます。彼らが紆余曲折を経て潮騒JTCに漂着し、とりあえず安住できるやすらぎの居場所を手に入れたことは大きな幸運です。しかし潮騒JTCは社会との中間にあるリハビリ施設で、通過点に過ぎません。残念ながら、そうした施設本来の役割が入寮者の高齢化や重複障害化、生活保護頼りで重大な岐路に立たされています。私があえて職業訓練や就労支援にこだわった「ジョブトレーニングセンター」の施設名を潮騒に冠したのは、たとえ完治しない困難な病気を抱えた依存症者だとしても、仕事をもって地域でなんとか当たり前に生活していけるような自立した回復イメージを夢想し、その実現を大きな目標にしているからです。

その意味で今回、円満退寮したハルさんは入寮者の手本となる存在で、大いに見習ってほしいものです。依存症者にとって「回復とは何か」の難題は置くとして、関連施設内の滞留化が加速するダルクや潮騒JTCにあって、働き盛りの入寮者が社会へと一歩踏み出す動機付けをどうしたら引き出せるか。この難しい課題に向けて潮騒JTCでは、製薬会社ファイザーの助成事業の本格的な取り組みをスタートさせました。今後、この潮騒通信で毎月の活動報告をしていきます。職業訓練メニューの整備と就労支援の地域ネットワークづくりを柱にしたジョブトレーニングプログラムの開発を目指す、潮騒独自の取り組みにご注目ください。(施設長 栗原 豊)

SJTC

SHIOSAI JOB TRAINING CENTER

2012

2月号 一部100円

Contents

- P1 自立心ある退寮者を輩出
- P2 護国院節分イベントに参加
- P3 追儺式「豆まき」フォト特集
- P4 職業訓練が本格スタート
- P5 パソコン研修&重機操作
- P6 第1回ファイザー推進委
- P7 ハルさんに修了証を贈る
- P8 DARS&初の責任者会議
- P9 受刑者からの手紙
- P10 近藤恒夫さん連載 N09
- P11 しおさい文芸コーナー
- P12 行事予定&献金・献品



NPO 法人 STORY (東京) の本間真一郎施設長(左)と握手する栗原施設長、今後の交流を約束しました

今年も護国院の豆まきに参加～お菓子やカップ麺など“福”をゲット

俳優の大沢樹生氏、ボクシング界の竹原慎二氏・畑山隆則氏・藤岡奈穂子さんらゲストも多彩

鹿島神宮に近い護国院（鹿嶋市宮中）で2月3日に追儺式（節分祭）があり、潮騒JTC入寮者らも豆まき儀式に参加しました。全国区の知名度を誇る鹿島神宮の陰に隠れがちですが、護国院の豆まきイベントは豪華景品が当たるなど近年人気上昇中。今年も潮騒JTCの栗原施設で特設壇上から「鬼声をからして菓子福分けの品々を待ち受ける大勢のた。入寮者の皆さんきなビニール袋をん「福」のプレゼントしました。ゲストも豪華年に続き元プロ野



長らが袈裟を掛けは外、福は内」と類やカップ麺などくさんまき、下で市民に喜ばれましも段ボール箱や大用意して、たくさトを拾い集めてい華な顔ぶれで、昨球選手（投手）のルグループ光

GENJIの元リーダー、大沢樹生（みきお）氏、元プロボクサー世界王者の竹原慎二氏、同じく世界2階級制覇者の畑山隆則氏、それに今年は紅一点として女子プロボクサー世界王者の藤岡奈穂子さんも参加して、護国院の豆まきイベントを盛り上げました。栗原施設長は「支援者の増古四郎さんの力添えて歴史あるお寺の恒例行儀に毎年、入寮者とともに参加できてありがたい」と話し、ゲストの皆さんと記念写真に収まりました。豆まき終了後の直会（なおりい）には栗原施設長も参加してゲストの皆さんと交流を深めました。



入寮者の皆さんも段ボール箱をかかげて、「こっちにも投げて！」と大声で叫んでいました

護国院「節分豆まき」フォト特集



護国院の節分豆まきイベントには毎年、多彩なゲストが参加します。日頃はお会いできない有名人にも潮騒JTCの活動をアピールしました。



豆まきではひときわ黄色い声援のあった大沢さん、直会の席でもご挨拶（左）。藤岡さんとのツーショットではさすがに栗原施設長もやや緊張（上）。お世話になっている増古さんご兄弟とともにゲストの舞台挨拶に注目（左下）。

【護国院】正式名称は「降魔山（こうまさん）護国院経首寺」。真言宗智山派の寺。本尊は不動明王。成田山新勝寺の不動明王とは、同じ木から彫られた兄弟不動とされる。北関東三十六不動尊霊場第二十九番札所。厄除不動尊として知られる。708（和銅元）年の開基。当初は鹿島神宮の境内にあり、1674（延宝2）年、鹿島大宮司の意向で現在地に移る。



潮騒JTC「ファイザープロジェクト」～2月から本格始動

家屋解体、重機オペレーション、パソコン研修…



●**職業訓練の第1弾は家屋解体作業** 潮騒通信1月号でお知らせしたように、潮騒JTCが今年1年間力を入れる「ファイザープロジェクト」が2月に入り、本格的に動き出しました。事前に実施した職業訓練・就労支援についての入寮者アンケートや個別面談に沿って希望者を募り、2月初旬にプロジェクトの第1弾として水戸市で活動する引きこもり支援NPO団体の敷地に建っていた、老朽化して危険な状態だった物置小屋の解体作業に取り組みました。この取り組みでは、遠距離のために早朝に施設を出発しなければならなかったにもかかわらず、これまで土木関係の仕事プログラムに参加して比較的、気心が知れていた仲間6人が手を挙げ、従来から潮騒施設の専属として

造園土木作業の訓練を指導してきた職人シンさんが随時、的確なアドバイスをしました。おかげで当初予定の3日間よりも1日早く、全ての作業を終えることができました。今回、解体対象となったのは約8坪ほどの小さな建物（木造平屋建て一棟）で、半ば廃屋と化していました。このために解体以前の生活ごみの片づけが中心となり、環境センターへの搬入や鉄くずの民間廃棄物処理業者への持ち込みなどでノウハウを身につけることができました。今後、リサイクル業や便利屋のような仕事に従事する際には役立ちそうです。解体の手順については家を建てるのと逆の手順で、瓦落とし、屋根はがし、外壁壊し、梁や柱の撤去、床はがし—など一連の作業過程を、参加メンバーらがバールを手にスムーズにこなしました。ただ、骨組みの解体は時間短縮を狙って施設のトラック（2トントラック）で引っ張る方式に替えたために、手のかかる細かい作業が体験できませんでした。解体作業プログラム開発における今後の反省点としたいと思います。ともあれ参加メンバーらは心地よい汗を流し、施設内で日がな一日ぼんやりと過ごす生活では得られない貴重な体験をしたようでした。改めて依存症者が施設外で仕事をするものの意義を感じさせました。（イチ）



手際良く解体作業をする入寮者たち。作業中の生き生きとした表情は、施設内での生活ではめったに見られないものでした。



家屋解体作業を終え、満足げな表情の参加メンバーたち

遊び心あふれるパソコン研修、重機操作ではプロの技を披露？

【意欲ある施設受講者を歓迎します！】

今やパソコンは車と同じくらい現代人の必須アイテム。事務系の職場だけでなく現業部門でも必要とされる重要な文明の利器です。健常者の一般就労でも国が介護福祉分野などとともにジョブトレ・メニューとして力を入れる中、潮騒のファイザープロジェクトでも就労に必要なスキルとして、柱となる職業訓練メニューに位置づけました。



入寮受講者に熱心に指導する講師の佐藤修さん（右端）

この依存症者向け研修講座では2月から約半年間の計画で、ワードを中心とした初歩的なパソコン操作のノウハウを身につけます。巷にあふれるパソコン教室のような分厚い教本などを使わずに遊びの要素を取り入れ、文書作成技術を柱にしたパソコン操作の基礎知識の習得をメインに、応用として受講者それぞれのニーズを反映した講座内容にしたいと考えています。できればこの潮騒通信の作成ができる程度のスキルを身につけてもらえれば、と思います。講師はプロカメラマンでウェブデザイナーでもある佐藤修さんをお願いしました。会場は潮騒には馴染みの鹿嶋市まちづくり市民センターのパソコン室で毎月3回程度、原則として水曜日を充てる計画です。入寮者の皆さん、ふるってご参加ください。

■農作業に建設重機を持ち込み、オペレーターの育成講習

「ガガー」「ウーン」。2月初旬、サッカーJリーグの鹿島アントラーズのホーム、カシマサッカースタジアムに近い集落の農家の畑に建設機械（油圧ショベル）が威勢のよい音を響かせました。同地区の支援者の要請で堆肥の掘り起こし・移動作業を引き受け、職業訓練メニューに組み込みました。土木・建築作業の工事現場でよく目にする重機を持ち込み、過去にオペレーターだった入寮者が操作して他のメンバーを驚かせました。入寮者アンケートでも、潮騒JTCには過去に土木工事などに従事し、重機オペレーターの免許を持つ人が少なくありません。こうした埋もれた逸材を生活保護受給者として施設で長く囲い込むのではなく、一定の回復を経た者を対象に地域で仕事を得られるようにしたい



ものです。今回、久しぶりにオペレーターを務めた入寮者は巧みに重機を動かしていました。その表情も生き生きとして輝きを放っていました。依頼主は「依存症の治療との整合性を図りながら、こうした潜在能力を持つ優れたベテラン職人に仕事を与えれば、本人にも大きな励みになり、施設本来の役割が活性化するのではないか」と指摘し、今回の職業訓練メニューに熱い期待を寄せていました。

＝第1回ファイザープロジェクト推進委員会開く＝

●各委員から貴重な意見～1年かけ多様なジョブトレの在り方を模索

潮騒JTCがこの1年間取り組むファイザープログラム助成事業（正式名称「薬物・アルコール依存症者の自立

支援および就労プログラム開発モデル事業」の推進母体となる「潮騒JTC・ファイザープロジェクト推進委員会」（委員

長・栗原施設長）が発足しました。2月10日には鹿島市まちづくり市民センターで第1回会議があり、各委員やワーキンググループのメンバーが紹介された後、栗原施設長を議長に議事を進めました。推進委要項やファイザープログラムの説明、実施計画などについて事務局側から説明があり、意見交換では各委員から貴重な提言がありました。推進委はプロジェクト全体の進行について助言・指導するブレイン会議の性格を持ち、計3回の開催を予定しています。栗原豊施設長、ダルク・マック代表、依存症に詳しい医療・福祉・行政関係者、ハローワーク、鹿嶋市、矯正施設関係者、地元の協力者（事業家）らで構成します。この下に施設スタッフで構成する実務者会議（ワーキング

グループ）を置き、事務作業を担います。

この日の意見交換では、地元の事業

主から施設外で汗を流して働くことの意義が語られ、「実際に入寮者に仕事を手伝ってもらっているが、施設にいるときと目の

輝きが違う。この事業で依存症者に対する就労環境の整備を」との助言。社会復帰したAAメンバーは「入寮者の労働意識をどう引き出すかが課題」「先進事例の研修や就労現場に出向くことが大事」「自分の適性に合った仕事があるはずで、時間を掛けて緩やかな就労条件をつくりたい」と求めました。医療・福祉関係者らは依存症の回復には欠かせない自助グループ参加と拘束される労働時間との整合性について、「固定的に考えずに多様なメンタルケアの在り方を柔軟に模索したい」と示唆しました。他の委員からは本プロジェクトの重要なテーマである就労問題と生活保護受給などについても指摘があり、こうした議論を今年1年間掛けて深めていきます。



ハルさん、円満退寮おめでとう！。1月末に鹿島市内で自助グループのバースデイ・イベントがあり、これに先立って潮騒JTC2人目の円満退寮者となった、施設スタッフのハルさんに栗原施設長から卒寮を祝って「修了証」が贈呈されました。ともすると「潮騒は退寮できないところ」などの根拠のないうさを耳にしますが、ここにきてハルさんのように意欲ある人材が生まれています。入寮者の皆さん。自分を信じて、しっかりとステップに取り組んでください。依存症の回復は入寮者（当事者）の意識に帰します。施設としてはその環境づくりに気を配り、ソフト・ハード両面から下支えしていきます。ハルさんを手本に希望を持って回復に努めましょう。

ハルさんに修了証



【ハルさんメッセージ】1年10カ月にわたりお世話になりました。不安だらけだったけど、12ステップの「認め、信じ、お任せ」に沿って与えられた回復プログラムを着実にこなせることができました。不健康だった体も次第に調子よくなり、ステップを信じることの大切さを、文字通り身をもって学びました。スタッフの一員に加えてもらい、施設運営のやり方も覚えました。本当にすべてに感謝です。栗原施設長はじめ事務局の皆さんも私を信頼して役割を任せてくれて、人間的にも成長できました。自分としては予想外の回復で、まさに奇跡です。皆さんも自分を信じ、自分を超越するハイヤーパワーにお任せすれば、必ずや回復へと導かれます。自分はこれからが新たなスタートです。今後とも潮騒や仲間とつながり続けます。それがアルコール依存症という私の病気を克服し続ける

私の生き方です。ありがとうございました。

潮騒と同じ依存症回復施設、東京都世田谷区のNPO法人STORY（すとおり）との交流会が1月17日、鹿嶋市大野ふれあいセンター多目的ホールであり、互いの入寮者らの体験発表や潮騒バンドによる演奏で盛り



り上がりました。昨秋のリカバリーパレードが縁で実現したもので今後、互いの交流を深め合うことを確認しました。

（1頁に関連写真）

潮騒バンドの演奏



修了証を手渡して栗原施設長が「おめでとう。よく頑張った」と円満退寮するハルさんの労をねぎらいました

依存症セミナーに参加して収穫を得ました

一月半ばに宇都宮へ仲間六人と共に、NPO法人・栃木タルクが実施したアディクションセミナーへ行ってきました。当日はお馴染みのめんどくさいという気持ちからの参加でしたが、行ってみて話を聞いてみるとそれほど固い話ではなく、依存症と向き合っていく為の心得的な話の内容でした。日々の生活の中でも取り入れられる内容ばかりだったと思います。自分は薬物依存症ですが、キャンセル依存症の家族の方の話や、その他の依存症者の体験談なども聞くことができました。自分の回復に役立つ事はやるだけやってみよう、という気持ちに改めてなった一日でした。

（ユウ）

2月誕生日の仲間たち



2月生まれ＝（左から）コバ、ユタカ、マコトの皆さん



みんなで焦眉のテーマを考え合おう

第1回「全国ダルク責任者会議」が東京・浅草で開かれました



司会の横浜ダルク、トムさん

1月31日に東京の浅草ビューホテルで、各地のダルク責任者が集まり、初めての全国会議が開かれました。日本ダルクが呼び掛けたもので、当日は数少ない女性ダルクを含む全国50カ所を超えるダルクと関連団体の代表らが参加し、地域定着支援センターや刑の一部執行猶予制度について研修を深めました。国の動きに合わせた研修会で、法務省の担当者らの講話に耳を傾けました。この日は残念ながら避けられない用事のために、潮騒JTCの栗原施設長は夜の部の懇親会のみでの参加でしたが、久しぶり



■全国の仲間たちと旧交を温めた栗原施設長■

にダルクの仲間たちと旧交を温めて意義ある時間を過ごしました。



薬物依存症者回復セミナー「DARS

イン川崎」開く＝栗原施設長らが参加

～「刑の一部執行猶予」法制化でシンポジウム～

第9回「薬物依存症者回復支援セミナー・DARSイン川崎2012」が1月21、22日に川崎市内で開かれ、潮騒JTCからも栗原施設長らが参加しました。今回のテーマは「境界を越えて～薬物問題における福祉・医療・司法～」。初日のミニシンポジウム「刑の一部執行猶予を考える」では、石塚伸一氏（龍谷大学教授）をコーディネーターに▽市川岳仁氏（三重ダルク）▽尾田真言氏（アパリ）▽加藤武士氏（京都ダルク）▽相良聡氏（川崎ダルク）の各シンポジストが熱く意見を交わしました。2日目は国立精神・神経医療研究センターの松本俊彦氏、東海大学の宮永耕氏、三重ダルクの市川氏、龍谷大学の土山希美望氏ら、依存症の世界ではぜいたくな顔ぶれを講師に示唆に富む講話がありました。

当事者にとって無関心ではられない「刑の一部執行猶予」法制化が大詰めを迎えていますが、制度そのもののビジョンが示されず、受け皿機能をダルクに丸投げの意図が透けて見えます。通報義務ではダルクの真骨頂である治療的なスリップをどう担保するのか、など見過ごせない課題もあります。昨秋の潮騒JTCフォーラムでも日本ダルクの近藤恒夫さんらが、「(薬物を) やめたいからダルクにきている。再発したからといって通報することはない。カウンセラーとしての守秘義務がある」と述べました。

潮騒の立場は明確です。薬物事件を繰り返す人は薬物依存症という病気であって、監視や威嚇で病気が治るわけではありません。当事者同士のセルフヘルプ活動の中で自らの薬物依存症を受け入れ、薬物で生きづらさをごまかす人生ではなく、仲間と共に薬物のいらぬ生活を続けて回復していくことです。必要なのは監視や威嚇ではなく、住居であり仕事です。社会復帰に向け、社会内での生活基盤がないことが問題であり、生活基盤をどう築くか、それを支える地域社会のセーフティネットが問われます。監視を強化し、違反すればペナルティーを科すぞと威嚇する、そうすればみんながルールを守り犯罪がなくなるはずとの思い込みは、ヤク中（アル中も）には通じません。失敗してもやり直せる社会にしたいものです。



受刑者のみなさんからの手紙(潮騒通信を読んで)

■絆を大切に一步一步前進する潮騒

人間、孤独には耐えられないのでしょうか？ いや、物理的な孤独よりもメンタル的な孤独には耐えられない。深い絆を理念とするダルク。潮騒にいる皆様の中でもロスさんの心の傷は治ることが出来なかったのか…そう考えていました。けれど、ふっと気づきました。それでも絆というものを大切に、一步一步前進している潮騒の皆様は現実から目をそらさず、現実から逃げずに前を向いている。乗り越えようとしている。その気持ちこそ大切なのではないかと。

(東京・T)

■栗原施設長とのつながりに大きな意義

私の場合、10回目の入所は全て覚せい剤で更に前回と今回は営利が付いていますので、仮釈放には厳しいものがあると思います。でも、「仮釈放になる、ならない」ではなく、服役中の自分自身の姿勢や失いがちな目標を保つ心のよりどころとして、そして何より出所後の更生は薬物依存症からの脱却なくしてはありえないので、その道筋をつけてくれるであろう潮騒 JTC・栗原施設長とのつながりが出来た事に大きな意義があると思います。～(中略)～どこかで思い切って環境を変えない限り、今までと同じ繰り返しになってしまうと思うので、今回はその第一歩としたいと思います。

(北海道・T)

■「スリップ」に対する不安が課題

変わりたい、変えたい、変わるんだ、そして認めてもらうんだと思っている私がいりますが、ちょっとした事でスリップしています。資料(注一潮騒発行の人権冊子)を

読んで少し怖いと思った事は、このスリップです。例えば私は、施設に行くのに2年近く心の準備をして行くのです。しかし、スリップした人がいたとして、それを目の当たりにして自分がスリップせずにいられるか不安です…。施設に入り(自分の意志で)スリップしてしまったら自分を許せるのか？ 今、私はスリップしてしまう事を前提に書いていますが、そんな事を考えている自分は本当にクスリを止められるのでしょうか？ 考えれば考えるほど、深い闇に入ってしまう。(東京・S)

潮騒ではスリップを「回復への不可避な道程」と考えます。依存症がなせる業だからです。(ゆ)

■ダルクの人を見て回復への希望が

潮騒通信などで依存症という病気のことを知り、自分に当てはめてみると納得することが多かったです。これまでに何度か刑務所で断酒会などの教育を受け、「薬物依存」という言葉は何回も耳にしましたが、これが病気であるとは聞きませんでした。むしろ、やめる方法としては「意志を強く持つ」「交友関係に気を付ける」で、出所する度に何度も実践してみましたが、挫折ばかり。自分の意志の強さや意気地の無さに呆れ果てて開き直っていたのが、ここ何年かの私の生活でした。それでも「刑務所とは縁を切りたい」という切実な思いが強くなりました。そういう時に潮騒 JTC に触れてみて、今までに無かった期待感を感じています。一朝一夕にはいかないでしょうが、この病気さえ治ればという気持ちになりました。(北海道・T)

続・ダルク25年の歩みから～**近藤恒夫さん講演・連載第9回**

ヤク中にも薬物免許場をつくってほしい

●国は乱用防止だけに力を入れてきた

昔に比べればヤク中、アル中も道端で孤独に野垂れ死にするケースは格段に少なくなった。入寮者もそれなりにダルクを選べるし、生活保護で最低生活？ が保障されているからね。居心地がいいから、ダルクツアー（施設内の循環移動化）が増えている。ぼくの希望としては、ダルクツアーばかりやっているんじゃないで、もう少し社会にも目を向けてほしい。ぼくは政治や政治家は苦手だけど、今の日本はどうなっているのか、だれが総理大臣になっているのか、国は薬物問題でどんなことをしているのか—ぐらいには関心をもってほしい。

とにかくこの国は乱用防止にだけには一貫して力を入れてきた。ダルクも行きがかり上、再乱用防止活動を各県の薬務課などと一緒にやってフォローアップしてきたけど、で、国はこれまで絶対に使わない人ばかり集めて「ダメ」「ダメ」ばかり、随分とカネを掛けてきた。だけど、集まるのはどうみても薬物とは無縁な、一生使わないだろうなと思える人たちだ。この運動を支えるのは地域の名士で名誉職のような、間もなく他界しそうな人たちばかり。しかも役員がころころ替わる。学校のPTA活動と同じで、新しい事はやっちゃだめ、だから前年踏襲が当たり前。替わり映えしないんだ。

ぼくからすると、国の姿勢はいつまでたっても覚せい剤やっている人はほっといて、とにかくやならい人を守っていくんだという考えに映る。思い出したよう

に水際作戦をやるけど、さっぱり減っていかない。逆に刑務所に入ってる人は多くなった。そういう人たちは長期刑ではなく、短期でどんどんシャバに出てくるわけだ。だったら、初めからそういう人たちを刑務所に入れなくてフォローアップしていくシステムを作ればいい。

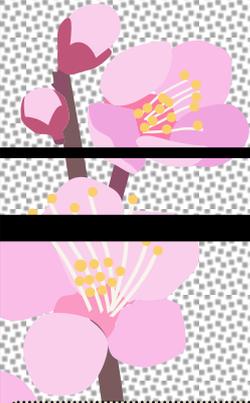
●今度こそ絶対にパクられないぞ！

例えば、車の運転で交通違反をすると、よく免許試験場に行かされ、見たくもないビデオ見せられるだろう。形の上だけでも一応は簡単な勉強をさせて、早く免許を取らせる。同じようにヤク中にも、薬物免許場みたいなものをつくればいいと、ぼくは考えるんだ。裁判所は判で押ししたように執行猶予付きの判決を機械的に下すけど、依存症について認識がないから簡単に社会に野放しにする。当然、依存症だからまたやっちゃうよな。

だから、それは国家の責任だ。国の仕組みがやめるようになっていない。再びやるようになっている。裁判で執行猶予になったら、ヤク中は「ああもうかった」「今度こそ絶対にパクられないぞ」ってね。絶対にやるに決まっている。向こう（＝国家）からすれば、まんまと罠（わな）にはまっている感じだろうな。またやれば今度は3年の実刑だ。3年いれば（指示待ち人間になって）ドアが開けられなくなって出てくる。それなら初めから刑務所に行かせず、ちゃんと（依存症についての）研修を受けさせたらいい。受けないやつは、クスリをやめる気ないやつ。やめるふりするのもしないかもしれないが、自分の病気と向かい合えるきっかけを手にはできると思うんだ。（続く）

しおさい文芸コーナー

選者 桐本石見



針供養木綿豆腐の模様かな

潮騒・豊

針供養は一年使った針を休ませ、また折れた針を五目飯や豆腐に刺して淡島様に供え供養する。関東では二月、関西では十二月に行い裁縫師の家などでは女性が着飾ってお参りする。木綿豆腐の木綿の模様にしみじみと見ているのか、男性には珍しい句。

春潮の波先延び来鹿島灘

潮騒・豊

潮の干満には、小潮、長潮、若潮、中潮、大潮の区別があり、また春と秋の干満は大きく、入江などでは奥まで満ちるし、鳴門の渦や有明海の干潟も有名です。今、鹿島灘の浜に満ちる波の思わず延び来るのを眺め春の思いを深くしているのかも、明るい一句です。

【しおさい短歌】

振る舞いも遠慮いらすの独り部屋

章三郎

点検の声とぶ朝の鉄窓に

迫る十勝の雪ふる大地

韓流を横目に見つつ毛糸編む

潮騒・稔

最近韓流ブームで少しうんざりもし、日本の良いドラマは無いものかとも思いますが、歴史的なものは面白い面もあります。その韓流を見ながら毛糸を編む妻の姿を詠んだ句で微笑ましい。

潮騒の仲間と語る冬夜長

北海道・一夫

俳句では夜長と云えば冬のことで、そこに古来から日本人の四季への思いがあります、今では電燈があり夜も煌々と明るいですが昔は日の暮れも早く夜を長いと思いました。その夜長に「潮騒」の仲間と語る、しみじみした句です。上五を「余生など」、「故里を」などにすれば景も想像出来る句になります。

人知れず海苔とり船の夫婦愛

北海道・一夫

海苔船は夫婦の共同作業で海苔筏に仕掛けた海苔を小船で引き上げますが、漕ぎ手と引き上げが上手く気が合うことが大事です。この句もその情景を詠まれて心情は良く解りますが、「海苔採りのゆらゆら見ゆる夫婦船」などにして余情を込めては如何でしょう。

寒雀日溜り追ひて移りけり

潮騒・稔

俳句の中では雀に限らず、鴉、犬などにも情を込めて寒の名を付けますが、ことに寒中の雀は餌を求めて庭先にも来る、そのふっくらとした姿も鳴き声も可愛らしい。日溜りを追いて哀憐の情を込めた一句です。

道祖神御鼻の先に氷柱かな

潮騒・稔

道祖神は道や旅人を守る神様で昔の街道や村に多く残っており、ことに信州の安曇野は名高く、表情も姿も多い。私にも、「花咲けば花見の酒の道祖神」があり懐かしいが、この句は鼻先の氷柱に哀れを込めた句で、笠地蔵の話なども想い旅の日が懐かしい。

Information

2月主要行事予定

- 10日 第1回ファイザープログラム推進委員会
- 12日 秋元病院メッセージ
- 15～16日 パソコン教室（職業訓練）
- 18日 秋元病院メッセージ
- 19日 ナオトさん1周年
- 20日 新宿とまりぎ相談業務
- 24日 プロジェクト（WG）会議
- 26日 家族会
- 27日 誕生会
- 29日～3月2日 依存症回復施設職員研修

3月主要行事予定

- 7日 パソコン教室（職業訓練）
- 11日 リカバリーパレード実行委員会
秋元病院メッセージ
- 14日 パソコン教室（職業訓練）
- 17日 北海道・十勝ダルクフォーラム
- 18日 横浜ダルクセミナー

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は
全員の方に同封させて頂いております。
どうぞご理解の程をお願いします。

▼献金戴いた方々

1月

▼献品戴いた方々

小岩井商事様
長谷川 トキ子様
シュレスタ 衣光子様

中村 照代様
堀内 誠様
岩田 けい子様
シュレスタ 衣光子様
イルポート・コボリ電気様

☆そのほか匿名の皆様から献金・献品・献金をいただきました。
ありがとうございました。

今月も多くの方から献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

編集・発行

アルコール・薬物・ギャンブル等複合依存症回復施設
特定非営利活動法人（NPO法人）

潮騒ジョブトレーニングセンター（本部）

〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
TEL/0299-77-9099 FAX/0299-77-9091
（〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号）
E-MAIL k.s-darc@orange.plala.or.jp
潮騒JTC ホームページ <http://shiosaidarc.com/>

■■■■■

潮騒リカバリーホーム（中地区施設）

〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16
TEL/0299-69-9099 FAX/0299-69-9098
（〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 56号）

編集後記 潮騒JTCが目指す方向に大きな影響を与えるファイザープロジェクトが始動しました。実は職業訓練の第1弾には、やっと今年収穫できるようになったシイタケ栽培（農業研修）を当てる計画でした。あの忌まわしい福島原発事故で放射性セシウム汚染問題に見舞われましたが、無事に出荷制限の基準値をクリアし、公的なお墨付きを得たので、支持者の皆さんにお配りして喜ばれました。生産農家の中には基準値をクリアできず、泣く泣く廃棄したケースもあった、とか。風評被害も大きいようです。それだけに東電と国の責任は重いと実感しています。吹けば飛ぶような小さな潮騒の取り組みですが、逆境にある地域農業を盛り上げたいです。（K）

発行所 郵便番号一五七—〇〇七三
東京都世田谷区砧六—二六—二一
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会
（会費を含む）
定価一〇〇円